

日本海側初の海水浴場開場 130 周年 —「海の柏崎」を再検証

今年、明治 21 年 5 月に、柏崎に日本海側初の海水浴場が生まれて 130 年を迎えます。この節目の年、「海」をキーワードに地域を見つめ直します。

太古の昔、生命の起源が海であったように、柏崎における全ての営みは、必ずどこかで海との関わりを持っています。さまざまな角度から「海」を再検証し、新たな価値の提供による経済効果の拡大、シビックプライドの醸成など、「海の柏崎」のリノベーションを目指し、取り組みを始めます。

■背景

夏の定番レジャー、観光誘客の柱として、かつて 100 万人を集めた海水浴は減少傾向が続いている。少子高齢化、レジャー指向の変化など、大きな世の中の変化があるのはもちろんであるが、市民の「海の柏崎」への思いも変わってきている。

■観光分野のテーマ

「新たな価値の提供による経済効果の拡大」

1 春・秋の海のにぎわい創出

「癒し・リラックス」

元来、海が持っている夏以外のシーズンの価値に気づいてもらうための情報を、新たな海の柏崎の魅力として発信する。

- (1) ビーチ・ベンチ・プロジェクト
- (2) ビーチピクニックの複数回開催

2 夏の強化

- (1) 自然水族館体験メニュー
- (2) 130 周年記念海開き
- (3) 海の大花火大会 BS 生中継
- (4) 海の大花火大会 栈敷席のインターネット販売開始
- (5) 十日町地域との観光誘客連携